



# まつきよしあき市会活動報告

No. 183

令和2年夏季号

(自民党芦屋市議会議員団)

〒659-0031 兵庫県芦屋市新浜町2-1-606

TEL・FAX. (0797) 32-8309

## 市議会 第二回定例会が開催されました。

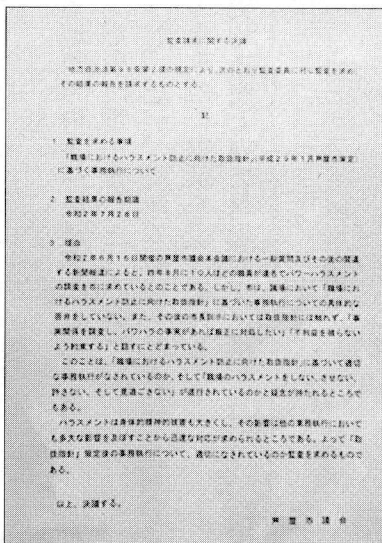
六月定例会が、六月八日から六月二十九日まで開催され、今回は、副議長や各常任委員会委員長の改選が行なわれ、私は建設・公営企業常任委員会の委員長に選任されました。

## 市職員によるパワーハラスメントの調査を求め、決議案を提出しました。

芦屋市の部長級の職員が部下にパワーハラスメントとも取れる言動を繰り返した問題で、昨年八月に十人程の職員が連名で市に調査を求めました。しかし、これまでに約十カ月経過したにもかかわらず、関係者に対する聞き取りは行なわれたものの事実を調べる苦情処理委員会は開かれていない模様です。

六月議会で市は、議員の質問に対して「個別の事案については答えられない」との答弁に終始。その後開かれた課長以上の職員に対する訓示でも市長は「当該の事実確認を行ない、事実があれば厳正に対処したい」と述べられるにとどまっています。このことは、芦屋市が平成29年1月に定めた「職場におけるハラスメント防止に向けた取り扱い指針」に基づいて適切な処理がなされたのか疑問です。

今、この問題で職員の間で不安と動揺が広がっています。パワーハラスメント行為は人権に関わる問題であり、職員の尊厳を傷つけ職場環境の悪化を招く、重大な人権侵害です。私は、今回の市役所内でのハラスメントを許すことにはできません。そこで私を含めて四人の連名で、議会として監査委員に対して調査を求める議案を提出、最終日の本会議で可決されました。今後監査委員による実態解明がなされるものと期待しています。



## 市長の給料と議員報酬ともに5%を来年三月まで削減することになりました。

新型コロナウイルスの感染拡大による休業要請などにより、市民生活が経済的に厳しくなっていること、及び感染症対策のため本市の財政支出が増大していることに鑑み市長と議員報酬のカットを行なうことになりました。また、同時に市議会は来年三月末まで他の自治体への行政視察を自粛することになりました。

## JR芦屋駅南再開発事業費の削減案が十二月に示されます。

再開発の事業費が当初の130億円から188億円と58億円も増大したため、3月議会とそれに引き続く臨時議会で予算案が否決となりました。

今年2月に市が公表した向こう10年間の長期財政収支見込みでは、本年度90億円ある基金(貯金)が7年後に0円に、9年後には9億円のマイナスになるとの予測が示されました。それに加えて今後、コロナによる経済悪化が見込まれますので、私は、再開発事業についてはいったん立ち止まって大幅に事業を見直して事業費の削減をすべきだと考えています。こうした中で市は、六月議会で最小限の人員費と委託料に絞った予算案(約八千万円)を提案してきました。この予算を審議の最中、副市長は「聖域を設けずに事業計画の見直しを行ない、十二月には削減案を示す」と述べましたので、私は再開発事業の補正予算案に賛成しました。

## 「伊丹と灘五郷」が令和二年度の日本遺産に認定されました。

芦屋、伊丹、尼崎、西宮、神戸の五市で構成する阪神間日本遺産準備会が申請を行っていた「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地「伊丹と灘五郷」が令和二年度の日本遺産に認定されたことは誠に喜ばしいことです。日本遺産登録は今年度が最後でしたので、喜びもひとしおです。

今回、芦屋では市内に所在する日本酒、酒造りに関わる文化財3件が構成文化財に含まれています。即ち灘の酒造家、山邑太左衛門の別邸ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)と芦屋川水車絵図(1857年)、灘五郷の酒米を精米していた水車群があった面影を残している芦屋川です。

今後は、この五市が連携してそれぞれの市が持っている地域資源を生かした体験や滞在、交流を売りにした観光地として発展するようにと願っています。

## 来年度の開設を目指して芦屋霊園内に合葬式墓地を建設しています。

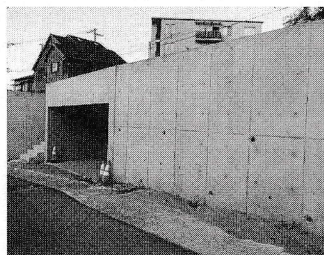
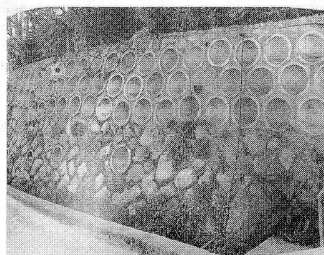
2025年には団塊の世代が後期高齢者になり、彼らが平均寿命を超える2040年前後には、死亡者数が現在の3割増になると予測されています。これから日本はかつて経験したことのない多死社会が到来します。こういう状況の中、近年は墓地に対する価値観の変化が生じ、同時に少子高齢化の更なる進展により現在あるお墓の承継が困難になると予測されています。このことにより、最近、承継者を必要としない合葬式墓地のニーズが高まってきています。

市が3年前に市民を対象にアンケート調査を実施しましたが、合葬式墓地が必要だという回答を寄せられた方が半数以上ありました。そこで市は、来年度の開設を目指して朝日ヶ丘町の芦屋霊園内に合葬式墓地を建設しています。詳細については市民生活部環境課(TEL31・2121内線2601)まで

## 水車臼を教材として活かすよう要望

今では、芦屋川周辺には水車の姿を見ることはできませんが、芦屋川水車絵図(1857年)には十数輦の水車が描かれていて、菜種の油を絞ったり、酒造りの精米、小麦粉をついてソーメンを作る、等のために利用されていました。阪急芦屋川駅より山手側、開森橋から北へ300メートルの所にある民家の石垣に水車臼がはめ込まれていて、かつてこの付近でたくさん水車が動いていたことの証になっていました。ところが最近、この石垣が取り壊され、コンクリートの壁になっています。

私は議会で取り上げ、市として事業者から宅地開発の事前協議届が提出されたときに現地での石臼の保存をお願いしなかつたのか質しました。これに対して教育長は、事業者と保存に関しての協議を行なったが、現地での保存は困難であることから教育委員会として19個の水車臼の提供を受けていることを明らかにしました。そこで私は、芦屋の歴史的遺産として保管し、子供たちの教材として活用するよう要望しました。



## 城山の保存と遺跡の発掘調査を要望

5月から、城山の山頂の送電線の鉄塔の建て替え工事のため広範囲にわたり木々が伐採され、工事が始まっています。

城山の山頂付近からはこれまで弥生式時代の土器片が多数見つかつています。また、約500年前には、山頂に鷹尾城が築かれていました。この鷹尾城は大きな石垣を築いた城と違って城山の急峻な坂を利用して空堀や木の柵などをめぐらせた城であり、今でも堀切や空堀の跡が見受けられます。

ところが工事で空堀の一部が埋められていることが判明しましたので、私は、市は工事前に埋蔵文化財の発掘調査を行なったのか、工事により空堀が埋められているが、どのように復旧させるのかなど議会に取り上げました。

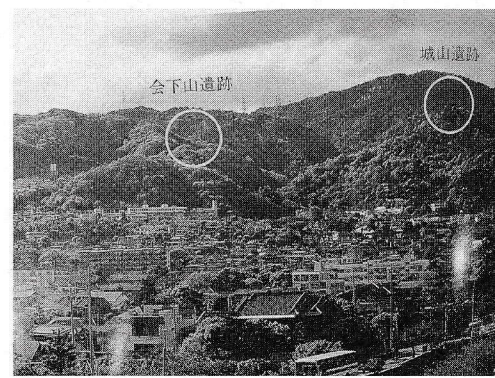
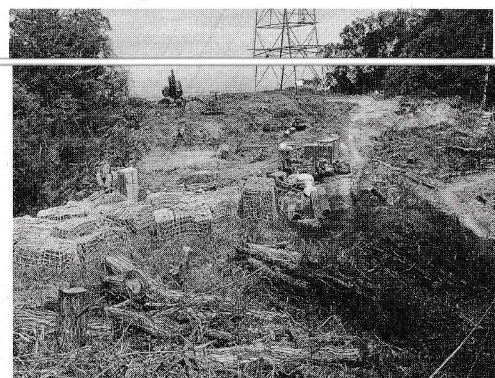
これに対して市は、事前に確認調査を行なっていないことと、鷹尾城跡の遺構の一部が工事で埋没していることを認めました。その後市の教育委員会の学芸員が随時立ち会い、記録を行なっています。埋没している箇所については事業者によって復元されることになりました。私は、最終的には城山を隣の会下の山遺跡と同じように国指定の史跡とするため、今後、市が発掘調査等を行なうよう要望しました。

## 小中学校の学習時間の確保と学校行事の実施を要望しました。

市内の小中学校は6月1日から再開されていますが、授業の遅れをどうやって取り戻すかが課題となっています。本年度中に各教科ごとの年間授業時間数を確保することは勿論、学習指導要領や教科書の内容をすべて習得させることができるのか疑問です。

先般、文部科学省は年度内の学習が遅れた場合、2〜3年かけて取り戻すことを通知しましたが、伊丹市では学習指導要領の内容全てを年度内に終了することを目指しています。芦屋市では、従来予定していた夏休みの期間を短縮し17日間の休暇だけで年度内に終了することができるとの疑問です。特に小学校6年生や中学校3年生は来年の受験を控えており、夏休みの短縮に加えて冬休みの短縮、平日の授業時間の延長なども実施しないと、他市の児童・生徒に比して不利になるのではないかと懸念しています。このことは他の学年も同様です。そこで私は、教育委員会に対して、学習指導要領や教科書の内容を年度内にすべて習得させるため、学習不足を補うカリキュラムの変更や授業時間数確保を目的とした夏休み、冬休みの短縮に加えて平日の授業時間の延長を実施するよう要望しました。

また、小学校では、一学期に予定していた運動会が中止となりました。これは運動会を二学期にズラしても音楽会や自然学校などの宿泊行事があり、簡単には延期できないからだそうです。運動会に限らず一学期に予定していた授業参観、校外学習、全校保護者会、水泳指導などが中止になり、二学期以降に予定している4年生の山の学校、5年生の自然学校、6年生の修学旅行などは、実施が中止か時期を動かすか検討中です。勿論、授業時間をどうやって確保するのかは最大の課題です。しかし学校行事も授業と同じように大切に、子どもを育てます。安易に中止にせず、実情を踏まえながら可能性を探ってほしいと教育委員会に伝えました。



# 出前いたします

暮らしの相談室の出前注文をお待ちしています。

ご質問・ご要望など何でも結構!



- 市役所  
TEL 31-2121 内線 5131
- 自宅  
TEL / FAX 32-8309
- 携帯  
090-2193-8360